

## 感染予防対策について（2024年，4月更新）

以下、長い文になりますが歯科治療をなるべく安全に続けられるよう、大切な事柄ですので最後までお読みいただけますと幸いです。

マスクの着用は患者さんの任意といたします。咳マナーなど、基本的な感染予防策はこれまで通りお願いいたします。

治療中にむせるなど咳が出てしまうこともあると思いますので、そのあたりはおおらかにお考えください。

これまで待合室、洗口室、診療室は患者さんお一人ごとに消毒液で清拭、乾燥、換気していました。状況を見ながら待合室と洗口室は適時の清拭、消毒に変更いたします。

しかし、これからも新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの流行状況にかかわらず、診療室の消毒はこのまま変更しません。そのため乾燥前は入室できませんので、体調の変化がないかご確認の上、ご予約時間の少し前にいらしてくださいませよう、お願いいたします。

歯科医師、歯科衛生士は今しばらくマスクやゴーグルを原則着用しております。なお、飛沫を多く浴びる歯科医師は適時、帽子や診療着を交換しています。歯科衛生士も同様です。

グローブは患者さんお一人ごとの交換だけでなく、診療室の入退室時も含めて複数回、頻繁に交換しています。

当院の感染予防のための設備は当院のホームページに記載しております。以前からできる限りのことはしており、特に設備追加はしておりません。

口腔外バキュームも常時稼働させています。これらの機器にはさらに2ヶ所、フィルターを追加しています。高性能 HEPA フィルターの網目は $0.3\mu\text{M}$ です。最終的には $0.01\mu\text{M}$ の網目のフィルターを通してしています。

併せて業務用の大型の外気取り入れ装置と排気装置を稼働しています。

当院では感染症専門機関からアドバイスをいただいております。

院長はアンチワクチン派でも推奨派でもありませんが、実際に感染症に罹患して苦しんでいる方、お亡くなりになられた方、悲しまれている方、後遺症で苦しんでいる方がいらっしゃるの事実です。

そして、人工透析をされている方やその他の基礎疾患をお持ちの方も大勢いらっしゃいます。重度の骨粗しょう症の方の中には、ひどい咳が続けば肋骨骨折をしてしまう方もいらっしゃいます。

必要以上に怖がる必要はないと思いますが、感染・発症しても欠勤や欠席ができる方、リモートなどで働ける方がいらっしゃる一方で、いろいろな事情で休めない方も大勢いらっしゃいます。当院にいらっしゃる間はお互い様と、ご配慮いただけますようお願いいたします。

当院では、消毒用アルコールや次亜塩素酸水による消毒は補助的なものとしています。理由は新型コロナウイルス感染症対策だけではなく B 型肝炎ウイルスやその他のアルコールでは効果がない感染症などに対するの防御も忘れてはならないからです。それらに効果のある次亜塩素酸ナトリウムや、高価な医療用の薬品をメインに使用しています。

院長 林浩太郎